

# 平成 26 年度 第 1 回 金沢市公立大学法人評価委員会

## 会議要旨

- 1 日 時 平成 26 年 7 月 7 日 (月) 14 : 00 ~ 15 : 30
- 2 場 所 金沢美術工芸大学 企画情報室
- 3 出席者 (評価委員会)  
榎見由美子委員長、福光松太郎委員、雪山行二委員  
(法人)  
前田理事長、村中理事、山村理事、池上理事、寺井教授、土井教授、  
高橋教授、山崎教授、吉本事務局長、池田事務局次長  
(評価委員会事務局)  
北村総務局長、林総務課長、紙谷総務課長補佐、桜木主査
- 4 議 事  
審議事項  
・平成 25 年度業務実績評価 (小項目評価) について
- 5 会議要旨
  - (1) 開会
  - (2) 総務局長挨拶
  - (3) 法人理事長挨拶
  - (4) 委員の紹介・・・・・・・・・・・・・・・・事務局から紹介
  - (5) 法人説明員、事務局員の紹介・・・・・・・・事務局から紹介
  - (6) 業務実績評価 (小項目評価) について・資料番号 4 にしたがって審議
  - (7) 閉会 (総務局長挨拶)

<審議要旨>

※ 資料番号1から3について、事前に各委員へ説明済のため、本会議においては特に問題となった小項目について、資料4の論点整理表を用いて、審議した。

法人事務局長より資料4の論点整理表につき説明

(委員) 美術館との連携があまり出てこない。金沢美術工芸大学の中にも美術館と言っているのか分からないが美術館がある。それから金沢21世紀美術館がある。美術館の立場からすると、大学とどのように連携するのは非常に重要な課題になっている。その理由のひとつは美術館の役割の中で美術館教育が非常に重視されているということもある。美術館の学芸員の数が充分でないということもあるのだが、美術館教育の専門的立場の人が、これは金沢21世紀美術館にはいるのだけでも富山県立近代美術館にはいない。そういうことから美術館側としては大学と連携をしたいと強い希望を持っているのだが、金沢美大ではそのようなことを考えなくてもいいのか。富山の場合だと富山大学の人間発達科学部と近頃、連携を強化している。大学としても学生さんにとっても、たとえば美術館でワークショップをすることとか、そういうことで視野が広がっていると思う。金沢ではそういう要請はあまりないのか、ということを感じた。

(委員) 今の点は大学と他機関の連携という点で業務実績報告書のどこかに書いてありましたよね。今、場所をさがしているのですが。

(委員) ちょっと見たところ書いてないですね。

(法人) 実際、学生はかなり美術館のイベントに駆り出されている。現代芸術家が来るときには手伝いをしたり、ボランティア的なことが多いのだけれども、そういった活動はかなり行っている。今年度になるのだがインターンシップ制度を金沢21世紀美術館側から言ってきたので本学の学生が、大学院生が中心なのだが、3人採用された。これは面接があるのだが、かなりの日数、6ヶ月くらい来て欲しいということだったのだが、大学院生であれば可能だろうと思い、本年度から始めた。また金沢21世紀美術館の館長本人が油画専攻の非常勤講師や卒業制作指導を行ったり、また修了制作展には館長をお呼びしてKANABIクリエイティブ賞を選んで頂いている。金沢21世紀美術館で修了制作展、卒業制作展をやるようになってから近い距離にあると思う。

(委員) 学生さんとしては、卒業制作展を大学の中でやるよりも金沢21世紀美術館でやるほうがはるかに多くの人から見てもらえるわけだし、美術館へ立ち

寄った人がたまたま見ることもあるし、非常に刺激になると思う。

(法人) 作品傾向まで大きく変わるし、大型化する。インスタレーション系の作品も、工芸にもそのような作品がかなり増えた。絵画の学生にもそのような、映像とか立体、インスタレーションが増えてきている。これは金沢21世紀美術館効果であると考えている。

(委員) どうもありがとうございました。

(委員) 項目番号30だが、教育内容及び教育の成果等に関する目標に書いてあるものは、金沢21世紀美術館で審査をしたという趣旨なのか。「○外部審査員を含めて5名の審査員による公開での口述試験と作品審査」との記載がある。

(法人) そうである。これは金沢21世紀美術館のことである。

(委員) そうであれば委員がおっしゃっていただいたところを括弧ではなく、金沢21世紀美術館においてというふうに記載すると連携が、あるいは市民の皆さんに見ていただきながらと言う形に記載すれば連携の有り様が出たと思う。

(法人) もう少し自信を持って記載をしたいと思う。

(委員) そうですね。もう少し自信を持って書いて頂きたいと思う。

(委員) ほかにそういう場所はなかったか。

(委員) 目立ったのは金沢大学だと病院との連携とか、どこかほかのところと連携しているところはなかったか。

(委員) 問屋町スタジオとか、項目番号20番になる。

(法人) 銀行とか図書館とかいろいろな公共施設では展示会をしているが美術館ではなかったため、業務実績報告書では記載していない。

(法人) ただ問屋町スタジオの運営の中で、金沢21世紀美術館の学芸員の人も入っていただいて本学の卒業生、大学院生と共同で企画運営ということでやっている。

(委員) そこは1年中なかやっているのか。

(法人) 展示等を結構行っている。

(法人) 展示だけではなく、制作を行う場所でもあり、常時だれかいる。

(委員) まちとの連携は非常に重要なことだと思う。横浜美術館にいた当時、旧売春街の黄金町を芸術家村にしようと、横浜国大だったか、横浜市立大学だったか、先生の発案で横浜市と共同で取り組んだことがある。横浜美術館もその中の1軒を借りて、そこで若いアーティストに制作をしてもらったり、ギャラリーに使ったりおもしろい試みを行っていた。美術館にとっても学生さん達にとっても、まちに出て行くのは非常に重要である。その点これはいい活動をされている。

(委員) 評価書の書き方が、例えば10ページ、どちらかというと産学連携もしく

は地域連携ということが書かれているが、社会との接点という点で場所を美術館、金沢21世紀美術館を活用してのというのが漏れてしまっているというか、産学連携とか地域連携というとなかなか美術館が想像つかないのでここに書き入れることはできなかったか。

(委員) 金沢21世紀美術館はどのように思っているのか。金沢美大と連携しようと思っているのか。

(法人) 金沢21世紀美術館の収集委員として呼ばれていくこともあるし、館長が教壇に立ったりしているので、決して敵対とは全く逆の関係であると思っている。

(委員) 敵対とかそういうことではなく、身内同士であるので他との連携に入れていないという方が強いのではないのか。

(法人) インターンシップの申し出が本年初めてあったのも少し盲点だったのかなと思う。金沢21世紀美術館側も大学との連携を初めて提案いたしますというふうに正式にいらっしゃった。正式なインターンシップ制度を設けるのに時間がかかった。実質的にはあったが正式にはなかった。学生はかなり行っていた。

(委員) 日常的に付き合っているという形だと業務実績報告書に記載が出てこない。

(法人) 大学の図書館司書は、夏休みになると金沢21世紀美術館に駆り出されていたりもする。

(委員) そのような形がいっぱいあると思われる。設置者が同じなので、他との連携だと思っていないのでないか。

(法人) 本学が初めて修了展を金沢21世紀美術館で行った当時は、良好な関係ではなかったと思う。展示場所でトラブルがあり、当時の大学が注意を受けたこともあったが、それは昔のことで今は良好な関係であると思っている。

(委員) どこがということではないのだが、IV評価が少ないがこれで良いのか。それともいいと思ってほとんどの項目をIII評価にしたのか。年度計画を4年もやったので、だいたいわかっているということで書くとこのような形になってしまう。先ほどのようにお聞きすると年度計画より進んだこともあるわけで、それを割と控えめに業務実績を書かれている気がする。IV評価はどれくらいか。

(法人) 3つである。

(委員) 昨年度のIV評価の数はいくつか。

(法人) 12項目である。

(委員) そんなに下がっても良いのか。

(法人) 6年を一つのスパンとして考えているので、早めに中期までに終えたものもある。例えば、カリキュラム改正や基準・規程、これらについてはかなり

早めにやったので、この辺についてはかなり上回ってやった年度もあった。本年度はご指摘の通り、少し慎重に残り2年を見据えて最後で達成するような、ここで達成して終了する項目があってもいいのだが、できれば6年を一つのスパンとして考えて高いレベルで達成したいという思いがある。ハードルが上がってくるので、4年目で完全達成するよりもあと2年で完成年度を迎えたいと考えている。

(委員) その辺と思いが違う。

(法人) 年度計画なので年度、年度でやって行かなければならないので、中期計画そのものの達成度ではないのだが着実に達成していきたい。Ⅳ評価というのは他大学の手本になるようなレベルにまで達成したものがⅣであるという思いがある。十分に達成していればⅢ評価と考えている。

(委員) 評価基準は、他の大学とのことではなくて計画に対してのことである。

(法人) Ⅳ評価というのは一般の世界だと計画を遙かに超えているもの、自慢できるようなもの、法人として外に出していけるようなものがⅣ評価だろうと思っている。

(法人) 中期計画を達成するために、段階的に年度計画を立てている。そうすると少しずつどうしてもハードルが上がっていく。そういう意味で言うと、だんだん年度計画の達成が難しくなっていく。

(委員) ある意味では4年や5年の満期になる前に中期計画のある項目は達成できてしまうということは当然、ある。中期計画中途に計画を達成したときの扱いというのははっきりしていない。

(法人) 体制を作るとかそういったものについては、もう達成したという格好でよいと思う。

(委員) 達成してしまったというのが、評価基準はⅠ、Ⅱ、Ⅲ、ⅣだけでⅤというのがない。そういうのがあっても良いのかもしれない。だから、もうこの項目については達成しているので中期計画から外していますと。今のうちに4年かけてできるところを6年かけてするというのも少し違う。

(委員) 今の段階で言うと、全体の評価基準、参考資料3になるが、評価項目がすべてⅣ評価またはⅢ評価、今のところはこれに当たるのだが、順調にSというのはなかなか達成できないところがある。Ⅳ評価の数が多ければ非常に良いとは思いますが、昨年度かなり達成したところが多く、今年はまだ準備なり、足踏みと言うことで、この調子でいけば自己評価、皆さんの異論がなければA評価でいくと思われる。あと理事が述べていた金沢美大との連携だが、今年新たにこの部分を加えると言うことはかなり難しいので、むしろ大学院とか金沢美大との連携をどこかに少しまとめて書き入れて来年度、内輪だと思っていたことが実は他との連携もあると。他と比べれば美術館との連携は特

筆すべきことなので来年度、IV評価を目指してどこかでまとめて書き入れていただくというようなことでいかがでしょうか。来年度、そこを書いて頂いて該当の項目をIV評価ということにする。美術館に学生さんの作品を展示することによって社会との接点、モチベーションを高める等、また金沢21世紀美術館に行くことによってインターンシップがなされているという点に今年度気がついたということで大学には受け止めて欲しい。

(委員) 今の部分はぜひそうして頂きたいと思う。ただ年度計画というのはある程度抽象的に書く。それをやってみたら業務実績のところは、具体的に今年はこのことを行ったと書かれる。それが年度計画で大学が期待していたよりはいろいろ展開があった場合は、堂々と自己評価でIV評価をつけて頂く。それで来年の年度計画の書き方はそんなに変えなくても、抽象的にはこういうことなので、また具体的なことを追っていけば良い。あまりハードルが高くなるとかではなく、その年度、年度で新たな試みをやったとか、もう少し業務実績の表現力を豊かに書かれても良いと思う。言葉で聞くと先ほどの金沢21世紀美術館のようにたくさん記載することがある。この中でもずいぶん押さえて淡々と単文となっている。それだけだとIII評価になってしまう。それぞれの年度ではいろいろなことがあって経験を積んでおられるはずなので、もっとIV評価があると思う。

(法人) 表現方法等は、もう少し研究させて欲しい。

(委員) 項目番号51について、学生支援に関する目標の業務実績、年度計画では大学生活全般に関するところで学生相談室で積極的に相談に応じるという点、教員研修の項目52もそうだが、これだけ業務実績の記載があるということは積極的に対応していることなので、IV評価でも良いと思われる。毎年、毎年実施する話なので、ここを今年度IV評価にするからといって来年度ハードルが上がる話ではないと思う。項目番号51・52については、今の時代背景を考慮してIV評価としてもよろしいか。資料番号26、29、27、32ということで、添付資料の裏付けもある。

(委員) 学生を対象に307件のカウンセリングを行ったとある。これは、前年度は何件だったのか。

(法人) 資料番号26を見て頂きたい。この2枚目に前年度実績243件とある。前年度より増加している。

(委員) この項目については、数値目標を掲げるところではない。困っている学生が増えたのか、大学側の相談体制が充実したので相談しやすくなったのかは、評価の分かれるところである。項目番号51、52、資料番号で言うと続けて27、FDは教員の研修実績、SDは職員の研修実績。前年度の記載はないが、最近では教員だけではなく、スタッフデベロップメントといって職員の

研修にも力を入れるのが最近の傾向である。ここも併せて項目番号51、52をⅣ評価にしたいと思うがよろしいか。

(委員) (各委員より) 異議なし

(委員) 全体を通してみると、書きぶりのところで文書が若干長いところがある。例えば項目番号35。よく「ともに」という語句で文章が繋げてあるのだが、一回切ってもいいと思う。項目45は、12行ぐらい繋げてある。ここら辺もせめて半分くらいでどこかで切ってもいいと思う。項目97。どこで切れば良いのか迷うが、これも半分くらいで切ればと思う。また文章中「この実施に取り組んでいる」で最後の句読点が抜けている。文章が長いところが、気がついた点。あと論点整理表項目番号2。「本学が中期日程に残ることにより芸術系大学を志望する…」とある。一般的にはそうなのだが、金沢美大にとって受験生を中期日程であることによって集めやすいとか、中期日程に残ることによって金沢美大に優秀な学生が集めやすい等の視点によって記載された方が良かったと思う。一方、添付資料があるので業務実績報告書でかなり記載を省略しているところも見受けられる。もっと詳しく見たいという時に資料を見るので、やはり業務実績報告書は具体的に書いて頂くとその中身が先ほどのカウンセリングの所みたいにきっちり書いてあると非常に活動しているなど目標を上回るような感触を得られる。例えば、論点整理表15ページ。ピアレビュー制度、要するに教員の質を向上させるために内部だけではなく、外部の方の意見を取り入れるのがピアレビューだと思うのだが、この辺のところをもう少し詳しく書いてもらおうと、中期目標のところでは書かれている、それから年度計画でここら辺のところをピアレビューの結果を評価し、授業相互評価制度の充実を図る、例えば教員の専攻であるとか、様々なこういう場面でピアレビューは使っているということを書いてもらおうと、ここはⅢ評価ではなくてⅣ評価ではないかとかとなる。今回のように淡々と書かれると、大学側の自己評価がⅢ評価ということになると、評価側もⅢ評価とすることになる。やはり書きぶり、具体的に教えて頂きたいと言うのは、むしろ、自己アピールをもっとして頂きたい。委員からも指摘があったのだが、業務を実施しているけれども添付資料の中に埋没してしまい、業務実績の中に書かれていないと場合によっては全てに目を通すことができないので、業務実績にたくさん書いてあるとさらに資料を精査して、ここはもう少し評価を上げられるかもしれないということもある。今年度は、資料を拝見した限り、Ⅲ評価以上になってはいるが、次年度に向けてもっと自己アピール、細かく書いてもらおうと、評価委員会側も評価しやすい。

(法人) 今のお話を確認させて頂くと、長い文書の点と、もっとわかりやすく詳しく書くという点で、長くても構わないからやったことは書くということによる

しかったか。

(委員) センテンスを短くしてたくさんを書くということである。

(委員) 評価というと上からの目線に見えるかもしれないが、それぞれの大学において25年度なり、こういうことをやりますということで、どちらかというところと抽象的なことで中期計画や年度計画を立てるのだが、それがどういう形において具体的に実施されたのかということを経営実績に書くことによって、大学自身がやったこと、やらないこと、書きぶりが少ないと今年度この部分はやったことが少なかったのではないかと、まさに自己評価になり、次年度経営実績報告に書くことを多くしようとか、もっと積極的に学生や研究、教育のために何かできることがあるのではないかと考えてもらえるのが評価だと思う。

(法人) 少し考え違いをしていた点もあるが、最近の傾向としてエビデンスをきちんとしなければいけない。言葉の裏付けを。そういう傾向に評価が最近ある。記述は簡潔に、エビデンスはしっかり出す、という思いを持っていた。根拠のないことを長々と書き連ねて評価側に時間を取らせるよりも、記述を簡潔にしてしっかりと事実を見せると全体的に考えていた部分もある。

(委員) エビデンスというのはどんなものでもよい。別に会議録でなくても学生のパンフレット1枚でも。エビデンスがないというのは、例えばこういうことを検討したということが書かれてあっても検討した資料がないというのがエビデンスのあるなしだと思っている。皆さんも同意見だと思う。実績が文章として表れていればパンフレット1枚、学生の報告書なりでも十分である。やはり評価もそうだが、ある意味、評価側も大学を応援していく立場だと思っている。そういう視点で見ているので、簡潔にしすぎないようにお願いしたい。

(委員) IIIが付いていれば市側では大学はよくやっているから予算を付けてやろうかというかどうか分からないが、また評価の結果がどのように市の政策に反映されていくのかわからないが、評価というのは基本的に自己評価が重要だと思う。どこでもうまくいかなかったことは多々ある。

そういったことも正直に、ここがうまくいかなかった、うまくいかなかった原因を明記することも評価ではないか。よくできましただけでは対外的には良いのかもしれないが、メリハリのあることしなければいけないと思う。

(委員) 経営実績報告書のところは、例えば普通の評価だと改善点とか優れた点とかということで別途記載するのだが、今回は経営実績を記載するので、そのところは中期目標、中期計画の完成年度において残された課題であるということが出てくるとは思う。現段階のところは、経営実績で今おっしゃられたようなところで次年度の課題として出てきた。行わなかったというのは



書きぶりとしては難しい。次年度の課題として業務実績に書いてもらおうと、次年度以降、繋がると思う。

(委員) 他の委員さんがおっしゃたとおりで、業務実績に書くことはまた別に来年はもうちょっとここを直そうということをやっているのですが、昨年度とは違うように同じ中期計画の項目とかでも年度計画の書き方とかが進化していけば良い。いわゆるP l a n・D o・C h e c kが回っているように感じるように書いてあるのが良い。大げさに書けば良いというのではないけれども、P l a n・D o・C h e c kが回っていることがわかるように書いて頂くことが一番いい。法律で中期計画が6年ということが決まっているのか。

(委員) 条例？

(事務局) 法律に基づいている。

(委員) 基本の法律が6年なのか。全大学が6年なのか。時代的に6年というのは適当なのかなと思う。世の中が変わっていくので、会社だと3年で回す。

(委員) 企業と違って教育は、学生は4年サイクル、大学院も入れると6年なので、企業とは同列に論じられないところがあるのかもしれない。

(委員) 外との連携だとかになるとあまり古い話をしていても。教育課題として6というのはとても良いのだが、大学が、社会における大学で見るともうちょっと短いサイクルでの事業展開がないと、逆に教育にフィードバックしにくくなる。そういう意味では年度、年度で活発に書かれたらいいので、あまり6年かかって達成しようということにあまり捕らわれなくてもよい。毎年、活発に活動した結果が、必然的に中期目標を達成するエネルギーになるのだろうと読みたいと思う。

(委員) 他にIV評価できる項目はなかったか。

(委員) 書きぶりだけ見るとなかなかIV評価にしにくい。柳宗理関係項目はIV評価になっていないのか。

(法人) IV評価になっています。

(委員) あと、先程これはできなかったということを書くとも評価がII評価になってしまうので、業務実績としては書きにくい。例えば来年度の評価において、課題として挙げられていたこの点についてとか、前の克服すべき課題を意図しつつ、あるいは改善点を意図しながらという形で、来年度書いてもらってもよいと思う。改善点は出てくるので業務実績という形で自己評価を付けなければいけない点では、ここができなかったと書いてしまうとII評価になってしまうという難しい点はあるが、別途、業務実績報告とは別に問題となる点については大学で話し合いをしてもらおうといい。ただ、ここに書き入れることについては、問題点も多々出てくる。

(委員) ただ、それをうまく年度計画に反映させることはできないか。

(法人) 事実の羅列ではなく、大学の検証システムとしてどういうふうに次へ引き継がれているかという書き方が必要だと思う。

(委員) 以前いただいた意見を審議してきた。先ほど評価を変更しました項目51、52をⅢ評価からⅣ評価へ変更するというので、小項目については以上の点を確認した上、評価を確定したいと思うがよろしいか。

(委員) (各委員) 異議なし。

(委員) 残りの項目は、大学側の自己評価のとおりとご審議頂いた結果どおり、一部修正の上、法人の自己評価を当委員会の評価として確定する。

みなさま、どうもありがとうございました。